

組合員皆様の保養所 *Sakura Resort Hotel Ishigaki*
 さくらリゾートホテル石垣



社内研修や記念旅行、
 永年勤続・優績者への表彰制度に：
 日本最南端の楽園「石垣島」で
 くつろぎの時間をお過ごしください。

ゴールデンウィーク期間の組合員様ご利用室料を
 下記の通りとさせていただきます。

令和4年4月28日(木)～令和4年5月5日(木) 8日間

客室料金	区分	料金	ゴールデンウィーク期間中
	Aタイプ(2人)	9,600円	14,400円
Bタイプ(2人)	14,400円	21,600円	
ロフトなど(1人)	2,500円	4,000円	
Aタイプ(1人)	7,800円	11,700円	
Bタイプ(1人)	12,600円	18,900円	

土曜・日曜・祝日の前日の割増料金は1,000円となっております。

ご来館いただく皆様へ

新型コロナウイルス
 感染症拡大防止対策

お客さまが安心してご利用いただけるよう
 以下のとおり徹底しております。

- 各フロア、客室への消毒液の設置
- 1時間おきに共有スペースの消毒及び換気
- 来館時及び帰館時に検温の実施
- お食事の際の時間制限及び人数制限
- お食事の個別対応
- お客様のチェックアウトから3日後の健康確認のご連絡

アソシエーションニュース
Association
NEWS

エス・バイ・エス事業協同組合

組合だより

2022
1月号
 季刊

CONTENTS

- 新年のご挨拶
- 組合員様ご紹介 VOL.7
- キタセキカードのご案内
- 道と車の雑学シリーズ
 冬の高速道路こんな場所には特に注意!
- 実家の本棚
- 名車ファイル VOL.21

Association NEWS

組合だより

令和4年1月16日発行

[発行者]

エス・バイ・エス事業協同組合

北海道
 本部

札幌市中央区南4条東3丁目19番地 イハラビル4階
 TEL:011-223-1460 FAX:011-223-3031

東京本部

東京都港区浜松町1丁目27番14号 サン・キツカワビル6階
 TEL:03-6402-7541 FAX:03-6402-7542

大阪本部

大阪府大阪市淀川区西中島5丁目3番26号 竹内ビル3階
 TEL:06-6309-0565 FAX:06-6309-0566

SBYS JIGYO Cooperative

新年のご挨拶

New Year Greeting

明けましておめでとうございます。

2022年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶申し上げます。

昨年は世界中が新型コロナウイルス感染拡大との戦いの一年でした。

その勢いは収まりつつありますが、いまだ予断は許さない状況です。

仕事や生活が大きく変わりました。

一方世界経済は落ち着きを取り戻しつつありますが、

我が国の経済は日本経済の不透明感から、

「経済にプラスに寄与しない円安」に見舞われ

世界経済から取り残された感が強くなっております。

環境対策としての「カーボンニュートラル」は皮肉なことに、

各種燃料価格の高騰を招き7年半ぶりともいわれている原油高騰につながり我が国の経済を直撃しました。

今後市場原理が、これらの不均衡を調整するものと思いますが、しばらく高値は継続していただろうと考えています。

しかしこれからは、アフターコロナを期待するのではなく、

ウィズコロナで「働き方」や「DX化」等ビジネスモデルも変革して行くこと、これが一層重要なことになるだろうと考えています。

このような環境の中、当組合としても昨年は皆様の事業活動に役立つべく、

経費節減の提案の一環として高速道路割引サービスの充実、新たな取引先との「燃料油カード」提携、

福利厚生事業としての「石垣島ホテル」、北海道洞爺湖のリゾートマンション「カトレア」の運営、

キャンピングカー「コースター」のリニューアルをさせていただきました。

2022年の干支は「壬寅」です。干支はそれぞれに意味があり、それによると

「壬寅」は「陽気を孕み、春の胎動を助く」、冬が厳しいほど春の芽吹きは生命力に溢れ、華々しく生まれる年と言われています。

徳川家康が260年以上も続く徳川幕府の準備を進めた夜明け前の年まさに「壬寅」でした。

当組合も今年が夜明け前の年「壬寅」となるべく、皆様の事業のお役に立てますよう職員一同で取り組んでまいりますので、

ますますのお引き立てを賜りますよう宜しくお願いいたします。



Es・バイ・Es事業協同組合
理事長

松浦 良一

組合員様ご紹介

Vol. 7

サンエス電気通信株式会社

お客様に満足と安心を。地域に貢献を。

サンエス電気通信は、Serviceサービス(顧客満足)、Speedyスピーディ(迅速対応、品質管理)、そしてSafetyセーフティ(安全、安心、信頼)の3つのSからとった3S=「サンエス」を旗印に、「サンエス電気商会」として北海道厚岸郡浜中町でスタートした。その創業は1947(昭和22)年にさかのぼる。

その後、道東で発展を続ける釧路市へ拠点を移し電気工事、通信工事の総合工事会社として、1979年、サンエス電気通信株式会社として社名を変更して現在に至る。

将来に向けてサンエス電気通信の進める新しい柱のひとつは、道内でもいち早く25年以上取り組んでいる風力、太陽光などの再生可能エネルギーに関する事業である。太陽光などのメガソーラーに続いて自家消費型のメガソーラー、小型風力発電などの工事のほか、風力発電の風況調査観測ポールを自社開発し全国に広げ、現在では洋上風力などのドップラーライダーによる風況調査などを展開している。

そしてもう一つの柱が、ヘルスケアなどの健康産業である。「電気から元気も」皆さんに提供する企業体になっていくということである。07年にウエルネスとしあわせを合わせた名前の当社のグループである健康企業「ウエルシア」による多機能銭湯「ふみぞの湯」である。1日平均1000人を超える来場者をもつ温浴施設で広く釧路市民にも認知されている。



新しい事業として機能性食品、サプリメントなどの北海道に由来する材料などの資源と当社の持つ食品加工技術を活用した事業も開始し、15年からサメ由来のプロテオグリカン販売し、そのプロテオグリカン入り飲むヨーグルト「トロリンさらりん」をべつかい乳業興社と共に開発し販売を開始し、道内の販売から全国への販売を目標としている。さらに、効能の高い田七人参を主体とした食後の血糖値の上昇を抑える機能性食品「ウエル田七、Well-Den」の販売を開始した。

サンエス電気商会の設立以来、電気通信工事からマルチメディア、携帯電話、インターネットをはじめとするIT分野への取り組み、さらには風力・太陽光発電、燃料電池などの環境・新エネルギー分野、さらに機能性食品、温浴などの健康分野も手がけるサンエスグループとなった。

22年には創業75周年を迎える。「サービス」「スピーディ」「セーフティ」の精神で、地域の発展に貢献してきたサンエスグループ、これからも新しい世代の活力ある企業として躍進は続きます。



本社



札幌支店

サンエス電気通信株式会社

本社	釧路市星が浦大通1丁目7番1号	TEL(0154)51-2924
札幌支店	札幌市東区北46条東19丁目1番1号	TEL(011)787-2821
根室営業所	根室市幸町2丁目6番地	TEL(0153)23-2207
中標津営業所	標津郡中標津町東42条南1丁目1番地8	TEL(0153)72-1539

ココからCHECK! /

会社案内

ウエルシア商品紹介



新しい給油カードの 取り扱いをはじめました!

このたび組合では、コスモ石油特約店の(株)キタセキ様と提携し、
全国130カ所のサービスステーションでご利用いただくことができる「キタセキカード」の取り扱いを開始しました。
全国130カ所の提携SSで、組合員価格で給油ができるキタセキカード、この機会にぜひご利用をご検討ください。

Point 01

広く余裕のあるフィールドと最新設備で お客様とお車をリフレッシュします。

広い駐車スペースや大型洗車機など、大型トラックでも安心!
ドライバーさんとお車をリフレッシュします!



Point 02

全国を網羅するSSネットワークで 安心・快適なドライブをサポートします

全国に広がる130カ所の主要サービスステーション!
指定代行店にはコスモの他、エネオスや出光(シェル)の
SSがあります!

- キタセキ直営・指定給油所
- キタセキ指定代行店・一般給油所



////////////////////// キタセキSSご紹介 ////////////////////////

キタセキSSは、平均1,500坪を優に超える大型店舗に、お客様に支持される好立地、
充実の設備とサービスをご用意して、組合員様のご利用をお待ちしております!

Kitaseki SS No.1

入間インターSS(埼玉県入間市)



- ☑️ トラック給油もセルフOK!
- ☑️ 同時給油台数の多さも魅力! [乗用車:12台、トラック:12台]
- ☑️ 入間インターまですぐの利便性。[入間アウトレットパーク・コストコも近く]
- ☑️ 大型洗車機を2機、乗用車ドライブスルー洗車機も2機設置。

キタセキ最大の敷地面積
2,600坪の超巨大SSです。
24時間営業です。

Kitaseki SS No.2

札幌新川SS(北海道札幌市北区)



- ☑️ 新川ICまで約2km。新川通りに面し札幌新道も近く好立地!
- ☑️ 大型洗車機を1機、乗用車ドライブスルー洗車機も2機設置。
- ☑️ AdBlue計量器も設置するAdBlue取扱店です。

敷地面積2,300坪で
大型トラックでも安心の広さ!
24時間営業です。

※全国約130カ所の直営店・指定代行店SSで給油することができます。
※ご利用ご希望の組合員様は、組合事務局もしくは営業担当者までご連絡ください。
※カード発行にはオリコの審査がございます。審査結果によってはご希望に添えない場合がございますがご了承ください。

(高橋尚志)



冬の高速道路

こんな場所には特に注意!



- ☑ 日陰の路面 …… 日陰になっている所は、気温が低く凍結しやすい
- ☑ トンネルの出入口 風が強く、突然の降雪も。トンネル内は凍結しやすい
- ☑ 長い下り坂 …… スピードが出やすい。スピードダウンと車間距離の確保を
- ☑ 橋の上 …… 吹きさらしの風で凍結が多い。スリップに要注意
- ☑ カーブの手前 …… カーブの手前は減速し、急ハンドル・急ブレーキは厳禁

高速道路における緊急時の対処法

110番 / 非常電話 / 道路緊急ダイヤル (#9910)

緊急電話 / 本線上(1kmおき)、トンネル(200mおき)、インターチェンジ、SA・PA、バスストップ、非常駐車帯に設置されており、受話器を取るだけで道路管制センターにつながります。

雪道の安全運転心得

1. 運転技術や車の性能を過信せず
2. 先を読み
3. 無理をせず
4. 冬装備は早めに

雪道での“急”は厳禁

急ハンドル
急加速
急ブレーキ



(道央情報サービス協同組合 玉木俊一)

実家の本棚

Vol.6

実家に置き去りにしていた本、整理したはずの本が出てくることはないでしょうか? また処分しようとした本を読み返し整理にならないこともありませんか? そんな懐かしい書籍をご紹介します。

『小説吉田学校 保守本流～保守回生』 戸川 猪佐武 著 [1980年12月 全8冊 / 角川文庫]

吉田茂と聞くと「ばかやろう解散」「ワンマン宰相」と良い印象を持たない方もいるかもしれない。吉田茂は、鳩山一郎の公職追放の後を受けて自由党総裁に就任するが、党内の中であって官僚の吉田は孤立し、自分のシンパを自らの手で作り出すしかなくなっていた。

吉田は、池田勇人、佐藤栄作などの官僚を政治家に抜擢し、「ここに戦後政界をリードするエリート集団「吉田学校」が誕生する。アメリカとのしたたか粘り強い交渉の末、日本の独立を勝ち取る。しかし、追放解除となった鳩山を総理に擁立すべく、謀将・三木武吉が立ち上がった。ここから吉田派と鳩山派による戦後保守政治と激しい派閥抗争が始まる。本書ではさらに自由党と民主党が統合した保守合同「フルシチョフと意気投合し日ソ漁業交渉を結ばせた河野洋平の外交戦略、日ソ交渉反対から一転、妥結しようとするも失敗した重光葵の悲劇などを日本の戦後復興と重ねて描いている。1960年代に入りケインズ経済学に傾倒する池田勇人が「私はうそを申しません」と言った「所得倍増論」で、日本は経済復興を遂げ東洋の奇跡と称賛された。58年前の東京オリンピックが行われたのもこの時であった。佐藤栄作の四選後田中角栄と福田赳夫の総裁選は、党人田中角栄と、その敵役官僚福田赳夫による激しい戦いとなり「角福戦争」と言われた。田中内閣は金権政治に倒れるが、業績として日中国交回復を残した。大平正芳、三木武夫、中曾根康弘が登場し主流派の「大福」と非主流派の「三福中」による「40日戦争」が勃発、現職総理大臣であった大平正芳の急逝により行われた史上初の衆参同日選挙で自民党は大勝利「保守回生」となる。この小説を読むと自民党は当時斬新な政党であったことと派閥の系譜が明らかになってくる。派閥の功罪はあるが、派閥が自民党の強みであったことが見えてくる。派閥名は変わっても今でも保守本流の流れは変わっていないことを黄泉の国から吉田茂が葉巻の煙をくゆらせながら微笑んでいるような気がする。

(岩田一典)

ダイハツオート三輪 CO型

【1959年~1972年】

戦後復興期、わが国には物資も少なく満足な自動車を作る環境になかった。トヨタ自動車は新型エンジンを開発していたが、日産をはじめとする他社は戦前のエンジンを10年以上も使用するありさまであった。一方、比較的容易に生産できるオート三輪は活況であり、200社を数える企業が参入するなど百家争鳴の状態であった。その中で抜きん出ていたのは戦前からオート三輪を生産する東洋工業(マツダ)とダイハツ工業であった。マツダはオート三輪トップの座を戦前トップであったダイハツから奪取している。両社ともオート三輪に向ける意欲は並々ならぬものであり、その技術力は「点火時期自動進角装置」、「油圧調整タペット」、「サーモスタット付冷却ファン」の採用など四輪メーカーをしのぐものであった。1950年に入るとハンドルが丸ハンドルとなり、ドアが付き、ルーフには幌がかかり、1959年になるとエンジンも水冷4気筒が搭載され、もはや四輪トラックと変わらないものとなった。特にダイハツは、ルーフにも鉄板を張っており、室内も内張があり、メーターもコンビネーションメーターを採用するなど無骨なマツダに比較すると自動車らしさが漂っていた。側面窓ガラスは樹脂を採用していた。エンジンはマツダのT2000の「VA型」が2000ccで81馬力に対してダイハツの「FB型」は1900ccで85馬力と強力であった。「FB型」は力強さの「VA型」に対して圧倒的なパワーがあり静粛性も高かった。1967年にダイハツはお家芸の「ディーゼルエンジン」を搭載するなど戦前からの研究技術を惜しみなく注ぎ込んで行く。2300ccの「DE型ディーゼルエンジン」は「ダイハツ四輪トラックD200」にも搭載され、トヨタとの業務提携後に「ダイナ」、「ランドクルーザー」のエンジンとしてトヨタ商用車の屋台骨を30年以上支えた「トヨタB型ディーゼルエンジン」に発展する。



写真はダイハツCO型 2トン積ダンプトラック

三輪トラックに乗ってみると小回りが聞く半面、走行は不安定であり特に左折等でロックブレーキを踏むと簡単に後輪が浮いてしまい、事実横転する事故も頻発していた。前輪が一輪である事からキャスターアクションが発生せず、丁寧にハンドルを戻す必要があった。1951年の「道路運送車両法」で、オート三輪については、通常の四輪車と異なり、車体幅や車体長、さらには排気量について制約が撤廃されていた事もありトレーラーであっても小型車扱いとされた。このため大手運送会社でも多くのオート三輪がLPG仕様で改造され、プロパンボンベをぶら下げて走る姿が昭和の風景に溶け込んでいた。しかし、経済の復興とともに時代の流れは四輪トラックに変わって行き、1954年にトヨタが「トヨエース」を発売すると、豪華になったオート三輪は「トヨエース」との価格差がほとんどなくなり衰退の一途となる。ダイハツは1972年、最後まで生産を続けたマツダも1974年で生産から撤退することになる。ダイハツは現在トヨタグループの軽自動車、小型車生産の要となっており、三気筒エンジンの技術、ディーゼルエンジンの技術はトヨタ小型車の中に脈々と受け継がれている。

(岩田一典)